1998.9.6

鳥取市立小鳥中学校 第3学年 社会科通信

なんでやねん

当行第6学 氏名

No.1

太平洋戦争(大東亜戦争)終戦の詔

未曾有の被害を受けた太平洋戦争は、日本の敗北で終わった。

現代語訳

満州事変から１５年。日本は、中国大陸の支配だけでなく、東南アジア全域・南アジア、さらには太平洋全域の支配をねらい、多くの国々の人々を苦しめた。

そして、日本国民も、その戦争のために、多くが生命を失い、家族を失い、財産を失った。鉄の暴風が吹き荒れた沖縄戦、本土でも大都市中心に受けた空襲。学童疎開。食糧不足。学徒動員・学徒出陣、若い命を無駄にした「神風特攻隊」。その被害は、数え切れない。

広島・長崎に原子爆弾の投下という、人類の最悪の悲劇で大戦は終結した。

私は深く世界の大勢と日本の現状とを考えて非常の手段で、この事態を収拾しようと思い、忠義で善良な国民に通告する。

私は日本政府に米国、英国、中国、ソ連に対してポツダム宣言を受け入れることを通告させた。

そもそも日本国民の安全を確保し、世界の国々とともに栄えることを喜びとすることは先祖から行ってきたことであって、私もそのように努力してきた。先に米国、英国に宣戦布告した理由も日本の政治的経済的自立と東亜の安定を願ってのものであって、他国の主権を侵害したり、領土を侵犯したりするようなことは、もちろん私の意志ではない。しかしながら、四年間の戦争で、われわれ陸海軍将兵の勇敢な戦闘、一般国民の努力、それぞれ最善を尽くしたにもかかわらず、戦争における状況は芳しくなく、世界の情勢も日本には不利に働いている。それだけではない。敵は新たに残虐な原子爆弾を使用して、何の罪もない非戦闘員を多く殺傷し、その惨害は図り知れない。それでもなお戦争を継続すれば、最終的には日本民族は滅亡し、人類文明も破壊されることになってしまうだろう。そうなれば私はどうしてわが子とも言える多くの国民を保って、先祖の霊に謝罪することができようか。これが政府にポツダム宣言に応じるよう命令した理由である。

私は日本とともに終始、東亜の植民地解放に協力した友好国に対して、申し訳ないと思わざるを得ない。日本国民で戦場で死亡し、職場で殉職し、悲惨な最期を遂げた者、また家の遺族のことを考えると体中が引き裂かれる思いだ。さらに戦場で負傷し、戦災にあい、家や職場を失った者の再起については私が深く心配するところである。

思うにこれから日本の受けるであろう苦難はいうまでもなく、大変なものになる。国民の負けたくないという気持ちも私はよく知っている。しかし、私はこれから耐え難し、耐え難きを耐え、忍び難いことを忍んで将来のために平和を実現しようと思う。

私は国民に対して、誠実であり、道義心や志、操を固く保ち、日本の栄光を信じ任重クシテ道遠キヲ念ヒ総力ヲ将来ノ建設ニ傾ケ道義ヲ篤クシ志操ヲ堅クシ誓ヒテ国体ノ精華ヲ発揚シ世界ノ進運ニ後レサラムコトヲ期スヘシ爾臣民其レ克ク朕カ意ヲ体セヨ

御名御璽

昭和二十年八月十四日

産経（東京）・朝刊　95・8月15日（火曜日）

大東亜戦争終戦ノ詔書

朕深ク世界ノ大勢ト帝国ノ現状トニ鑑ミ非常ノ措置ヲ以テ時局ヲ収拾セムト欲シ茲ニ忠良ナル爾臣民ニ告ク

朕ハ帝国政府ヲシテ米英支蘇四国ニ対シ其ノ共同宣言ヲ受諾スル旨通告セシメタリ

抑々帝国臣民ノ康寧ヲ図リ万邦共栄ノ楽ヲ偕ニスルハ皇祖皇宗ノ遺範ニシテ朕ノ拳々措カサル所、曩ニ米英二国ニ宣戦セル所以モ亦実ニ帝国ノ自存ト東亜ノ安定トヲ庶幾スルニ出テ他国ノ主権ヲ排シ領土ヲ侵スカ如キ固ヨリ朕カ志ニアラス然ルニ交戦已ニ四歳ヲ閲シ朕カ陸海将兵ノ勇戦朕カ百僚有司ノ励精朕カ一億衆庶ノ奉公各々最善ヲ尽クセルニ拘ラス戦局必ラシモ好転セス世界ノ大勢亦我ニ利アラス加之敵ハ新ニ残虐ナル爆弾ヲ使用シテ頻リニ無辜ヲ殺傷シ惨害ノ及フ所真ニ測ルヘカラサルニ至ル而モ尚交戦ヲ継続セムカ終ニ我カ民族ノ滅ビヲ招来スルノミナラス延テ人類ノ文明ヲモ破却スヘシ斯ノ如クムハ朕何ヲ以テカ億兆ノ赤子ヲ保シ皇祖皇宗ノ神霊ニ謝セムヤ是レ朕カ帝国政府ヲシテ共同宣言ニ応セムルニ至レル所以ナリ

朕ハ帝国ト共ニ終始東亜ノ解放ニ協力セル諸盟邦ニ対シ遺憾ノ意ヲ表セサルヲ得ス帝国臣民ニシテ戦陣ニ死シ職域ニ殉シ悲命ニ斃レタル者及ト其ノ遺族ニ想ヲ致セハ五内為ニ裂ク且戦傷ヲ負ヒ災禍ヲ蒙リ家業ヲ失ヒタル者ノ厚生ニ至リテハ朕ノ深ク軫念スル所ナリ惟フニ今後帝国ノ受クヘキ苦難ハ固ヨリ尋常ニアラス爾臣民ノ衷情モ朕善ク之ヲ知ル然レトモ朕ハ時運ノ趨ク所堪ヘ難キヲ堪ヘ忍ビ難キヲ忍ヒ以テ万世ノ為ニ太平ヲ開カムト欲ス

朕ハ茲ニ国体ヲ護持シ得テ忠良ナル爾臣民ノ赤誠ニ信倚シ常ニ爾臣民ト共ニ在リ若シ夫レ情ノ激スル所濫ニ事端ヲ滋クシ或ハ同胞排擠互ニ時局ヲ乱リ為ニ大道ヲ誤リ信義ヲ世界ニ失フカ如キ

ハ朕最モ之ヲ戒ム宜シク挙国一家子孫相伝ヘ確ク神州ノ不滅ヲ信シ任重クシテ道遠キヲ念ヒ総力ヲ将来ノ建設ニ傾ケ道義ヲ篤クシ志操ヲ堅クシ誓ヒテ国体ノ精華ヲ発揚シ世界ノ進運ニ後レサラムコトヲ期スヘシ爾臣民其レ克ク朕カ意ヲ体セヨ

御名御璽

昭和二十年八月十四日